

令和2年度 学校経営計画・学校評価

☑4月6日提出 ☑10月16日提出 ☑3月29日提出

学校番号	48	高知県立清水	高等学校	課程	全
------	----	--------	------	----	---

高知県の教育の基本理念	(1) 学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく子どもたち (2) 郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人材	取組の方向性	①チーム学校の構築 ②厳しい環境にある子どもたちへの支援 ③地域との連携・協働
目指すべき姿	生徒一人ひとりを大切に、保護者や地域に信頼され、生徒及び教職員が誇りと自信が持てる学校を目指す。 様々な困難を自ら克服することができるたくましい生徒 (1)個性やよさを活かし、生きていくための基礎学力と態度を身につけた生徒 (2)周囲の状況を理解し、人を思いやり、平和な社会を構築できる人間的魅力を持った生徒 (3)社会のマナーを守り礼儀を重んじ、他とのコミュニケーション力を備えた明るい生徒	目指すべき姿を実現するための取組等	・基礎学力の定着と学力の向上 ・基本的な生活習慣の確立 ・社会性の育成 ・生徒理解・生徒支援の充実 ・家庭や地域との連携 ・連携型中高一貫教育の推進

学校関係者評価	
【学力の向上】 評価 【 A 】	全体的に学力向上の傾向がかがみられる結果が窺われました。下位層の底上げだけでなく、中位層以上も一定数が維持されています。ICTを効果的に活用した授業づくりに取り組みなど、教職員の授業改善への意欲や工夫も見られます。一方で、生徒の家庭学習への取組と計画的な学習については課題があり、今後の改善に向けて取り組むことを期待します。
【社会性の育成】 評価 【 B 】	地域と一体となった地域課題解決学習への取組が進展しています。地域人材を効果的に活用し、講話を行ったり、合同の取組を行ったことなど、探究的な学びの機会が増えていると感じます。将来の夢や目標を主体的に考え、行動する取組をさらに充実する必要があると思われます。
【チーム学校】 評価 【 B 】	教職員が授業改善に対して高い意欲を持っていることと生徒への支援体制が充実してきていることが評価に値すると思います。生徒、保護者、教職員が一体となり、さまざまなことに取り組み、成果を挙げていることを地域や中学校によりいっそう発信することで、地元中学校からの進取率も向上すると思われます。

《重点項目：生徒に対する取組項目》

(評価)A:目標を十分に達成 B:目標を概ね達成 C:やや不十分 D:不十分

	育成を目指す資質・能力【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
学力の向上	○基礎的・基本的な知識及び技能 ○思考力、判断力、表現力 ○主体的に学習に取り組む態度(学習習慣を含む)	・基礎力診断テスト3年D3の割合20%以下 ・基礎力診断テスト2・3年B3以上の割合30%以上 ・1時間以上学習をしている割合(R1年度:43.9%→50%) ○学校評価アンケート ・私は計画的に学習に取り組んでいる割合(R1年度:64.4%→70%)	・授業改善(主体的・対話的で深い学びの実現) ・学びなおしの機会の確保 ・学習支援員の活用により個別指導の工夫 ・課題の工夫による家庭学習時間の確保 ・遠隔補習授業の活用	C ・基礎力診断テスト3年生D3の割合は34%であり、目標は達成できなかった。 ・基礎力診断テストB3以上については、3年生は11.4%、2年生は24.3%であり、目標は達成できなかったが、2年生では、前回(25.6%)の水準を維持した。 ・1時間以上学習をしている割合については、41.1%で目標は達成できていない。	・学力向上に係る授業改善について、具体的な目標や取組を再確認し、計画的に実施する。 ・「すららネットドリル」を活用し、学び直しに取り組み。 ・Google classroomを活用し、課題提供などを行いながら、家庭学習の定着を図る。	B ・基礎力診断テストについて、3年生のB3以上は11.4%(6月)、2年については24.3%(6月)・27%(1月)であり、わずかに目標に届かなかった。 ・1時間以上学習している割合は36.9%であり、目標を達成できなかった。 ・学校評価アンケートにおける「計画的な学習への取組」については47.7%であり、目標を達成できなかった。	・資質・能力の育成を目指す授業改善に組織的に取り組む。(「授業改善チーム」の設置) ・各教科に探究的な学びを位置づけ、家庭学習との連携を図る。 ・ICTを活用した授業づくりを推進し、効果的な活用について研究を継続する。
社会性の育成	○コミュニケーション能力(かかわる力) ○キャリアデザイン能力(やりぬく力)	・「自分の考えや気持ちを分かりやすく相手に伝える」(R1年度:74.6%→80%) ・「将来の夢や目標を持っている」(R1年度:77.3%→85%) ○学校評価アンケート ・私は高校卒業後の進路を決めている(R1年度:79.0%→85%)	・仲間づくり活動等の人間関係づくりの機会の確保 ・地域課題解決学習 ・体育祭 ・学習記録ノートの活用	B ・「自分の考えや気持ちを分かりやすく相手に伝える」は75.0%であった。 ・「将来の夢や目標を持っている」は75.9%であった。 ・地域学校協働活動推進事業を活用し、総合的な探究の時間においては、「環境」、「観光」、「防災」、「子ども福祉」、「食」のグループで地域課題解決学習に取り組んでいる。(1・2年生)	・地域人材を活用し、地域課題解決学習を深めるとともに、様々な提案ができるように探究を深める。 ・生徒主体の学習の機会を多く持ち、コミュニケーションの力を高める。また、よりよく相手に伝えるためのプレゼンテーションのスキルも磨く。	B ・「自分の気持ちを分かりやすく相手に伝える」は73.8%で目標を概ね達成した。 ・「将来の夢や目標を持っている」は72.0%で目標を達成できなかった。 ・学校評価アンケートにおける「高校卒業後の進路」については67.9%で目標に到達しなかった。	・地域学校協働本部事業を活用し、地域と一体化した取組を推進する。 ・「探究学習チーム」を設置し、教科横断的な探究学習について研究を開始する。 ・「早期の進路意識を形成させるため、進路説明会を随時実施する。

《チーム学校：教職員が取り組む項目》

	取組のねらい【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する。	○学校評価アンケート ・私は授業がよくわかる」85% ・先生の授業は、教材や教え方が工夫されている」85% ・学校では、きめ細やかな学習指導が行われている」85%	・教科会の充実 ・研究授業及び研究協議の充実 ・教員間の相互授業参観の充実 ・学校支援チームの活用	C ・(オリジナルアンケート)問10-11-12の肯定的回答は93.7%であった。 ・「清水高校授業改善の取組」について全教職員で共有し、目標と振り返りを設定する授業づくりに取り組んでいる。また、「ICT活用の授業づくりについても研究を推進し、生徒の資質・能力を育成する観点での授業づくりを進めている。	・学校支援チームによる公開授業や年次研修による研究授業における授業研究を深め、教科会等で、適切な目標設定や振り返りについて協議する。 ・AI教育推進事業を活用し、生徒の資質・能力を育成する観点でのICT活用の授業づくりについて全教職員で取り組む。	B 学校評価アンケートでは、「授業がよくわかる」75.5%、「工夫されている」96.4%、「きめ細やかな指導」92%であり、概ね目標に到達した。	・生徒の主体的な学びを支援するためICTを効果的に活用する。 ・目指す生徒像を実現する授業づくりについて各教科で検討し、計画を作成する。
生徒理解・生徒支援	生徒一人ひとりの生活環境を十分理解し、個に応じた生徒支援を組織的に行う体制を構築する。	○学校評価アンケート ・学校には、信頼できる先生がいる」95% ・学校には、安心して話したり相談したりできる先生がいる」85%	・支援委員会の充実 ・支援情報会の充実 ・事例整理シートの活用 ・チーム支援ワークシートの活用	B ・(オリジナルアンケート)問8の肯定的回答は85%であった。 ・本年度より、生徒情報について、月ごとに周知会を設定し、全教職員で共有しながら支援体制を強化している。	・SCと連携し、生徒一人一人の支援体制について協議しながら、生徒理解を深める。 ・支援を要する生徒について、全教職員で支援できる体制を構築する。	B 学校評価アンケートでは、「信頼できる先生」82.9%、「相談できる先生」76.6%であり、目標には到達しなかった。	・引き続き、組織的な生徒支援体制を維持し、全校で生徒理解に努める。 ・社会福祉協議会等の外部機関と連携し、卒業後の自立について理解を深める場を設ける。
学校の振興	中高一貫教育を推進し、地元中学校からの生徒数を確保するとともに、地域と連携し、土佐清水市の課題解決に向けた取り組みを実施する。	・地元中学校からの入学生徒数(H28:47→H29:47→H30:33→H31:40→R2:35→R3:40) ・地域課題解決学習の内容の還元状況 ・地域からの依頼状況	・交流授業の一層の充実 ・高校生から中学生への情報発信 ・小中高一貫地域学習プログラムの実践と成果発表会の実施 ・地域人材の活用	B ・学校運営協議会を設置し、市内中学校関係者や地域住民との協議を通じて、学校魅力についての議論を行っている。 ・9月には、高校生、中学生、小中学校保護者(全882名)を対象にアンケートを実施し、分析を行っている。	・9月に実施したアンケート結果を全教職員、学校運営協議会委員等と共有、分析し、今後の学校づくりを協議する。 ・学校の魅力化について、今後3～5年後を見越した「魅力化プラン」を作成する。	C 学校運営協議会を年間3回開催し、学校の現状と、アンケート結果を分析するなどして、学校魅力化に向けた具体的な協議を行うことができた。 高台移転に向けた関係者との協議を行いながら、地域に学校の特色をさらにアピールする方法について協議した。	・学校の魅力化について、中期的な目標と取組としてアクションプランを作成する。 ・総合的な探究の時間で地域と連携し、取組を進める。 ・生徒の活動報告を中学校に対して実施する。(リモートシステムを活用する)
働き方改革	働きやすい職場、働きたいと思わせる職場を目指す。	・長時間勤務者の人数について月80h以上(R1:延9名)、月45h以上(R1:平均5.7名)→なし ・運動部活動に係る活動方針の遵守	・チームとしての協働と分担 ・定時退勤日の設定 ・部活動複数顧問制(一部) ・部活動時間の制限と部活動休養日設定(週1日以上および年間を通して週2日以上)	B ・時間外勤務時間の平均については昨年度から34%減少した。 ・部活動対外試合等での引率業務による長時間勤務者が3名程度存在する。	・学期末や年度末など、校務が繁忙となる時期については、互いに補助を行うなど、共助の視点を啓発する。 ・部活動については、可能な限り顧問を複数にする。	B 時間外勤務時間の平均が45時間を超える教員は1名であった。40時間を超える教員は2名であった。働き方改革の視点での業務改善の意識は浸透している。	・引き続き、組織的・協働的な視点での業務改善を推進する。 ・1年間の業務予定を把握し、業務が適度に集中することを可能な限り避けるようにする。